

公共施設をもっと地域のために使いやすく！

－宮前区地域デザイン会議－

令和4（2022）年12月10日（土）14:00～16:30

区内の事例紹介：公園活用・一定のルールに基づく許可

コミュニティ・プラットフォーマー/宮前まち倶楽部 辻 麻里子さん

00:00:04

- 今日は、宮崎おちば公園で開催している、公園ミニマルシェについてお話をさせていただければと思います。いつもはみなさん知っている方ばかりなんで、宮前まち倶楽部の辻と紹介するんですが、この12月4日にちょうどおちば公園でやったんですけれども、その時は地域の方々が実行委員会形式でやりましたので、宮前まち倶楽部ほとんど関わってなくて、コミュニティ・プラットフォーマーは自分で去年から名乗っていております、一応そういう風にしました。

00:00:48

- 公園をなぜ活用したいかっていうのを、これもずっと思っているんですけれども、あまりにも宮前区には素晴らしい方たちがたくさんいらっしゃるいろいろな活動しておられたり、さっき川田さんもおっしゃっていましたが、すごく美しいもの作れる方もいっぱいいらっしゃるのに、全然知らない人があまりにも多すぎて、もったいなすぎる [と思います]。
- このまちの中に眠っている資源を、とにかく一人でも多くの方に見ていただきたいし、またそれを通して人が結びつけるようなとか、参加する場とか自分の出番を持っていただけることができるんじゃないかっていうのを考えました。ずっと考えていました。
- それで、そのためには、恐らく今まちの中でこういう活動に参加されていない90%くらいの方がいらっしゃるんじゃないかと思うんですけれども、この方たちがたまたま歩いていたら見つけたみたいな、そういう意味で屋外の公共空間っていうことに徹底的にこだわっています。
- やりたいことは、ビジョンは、誰もが健やかに暮らすことができ、ここの宮前区が地元であるってことが嬉しいと思えるようなまちをつくりたい。
- そのために、私たちができることはまちの資源、素晴らしい方達や素晴らしい活動を可視化して人に見ていただいて、それを通してみんなが自分の居場所や出番を持てるような場を生み出したい。
- そのために、私たちが大事にしないといけないことは、多様性の尊重と信頼の醸成かなと思って、これを基本にずっと活動してきています。

00:02:33

- 2012年に宮前まち倶楽部というのを立ち上げたんですけれども、まちの資源の可視化の場をずっと求めて宮前区中の公共施設も全て歩いて全部見せていただきに行ったんですけれども、どこがいいかなと思ってうろうろしているうちに、本当にこれはもう閃いたんです。公園があるじゃん！公園で

やればいいじゃん！とすごく思ったんですね。

- でも、そのときは公園をどう使っていいか全くわからなかったですし、ただ公園がある。公園ってすごい資源だって思いました。
- それで、公園をどう使えるのかっていうのを考えたときに、2017年、2021年、2022年とこの流れで公園を使わせていただいてやってるんですけども、それを少しご紹介します。

00:03:32

- 2017年には、公園があるって思ったときに公園を使うことがどうやっていいか分からなかったんですね。それで、まず町内会に行きました。町内会が愛護会などで公園を管理しているっていうことがわかっていたので、行ったところ、わけのわからない市民団体とか、わけのわからない人には貸すことはできないし、使うこともできないから、協力はできないと言われました。それは当然のことだなと思いました。
- その後、本当にこれはたまたまだったんですけども、市民館で公園をコミュニティとして使おうっていう公園活用の講座があったんですね。それで、それに出てみようと思って、そこに出ました。それでここに出たことによって、公園というのが愛護会があって公園管理協議会があってとか、そういうことを教えていただいたりしました。
- それで、とにかくやってみようっていうことで、ここにもたくさん今日いらっしゃっているんですけど、「miyamae ぷらっと」という、いくつかの市民団体の方々に声をかけて、みんなで企画運営して、これを公園で一緒につくりませんか、公園を使いませんかというふうにして、皆さんに賛同いただいて、miyamae ぷらっとという市民活動団体複数で、団体として参加するのではなくて、皆さん個人として参加して下さって、2017年にやり始めました。
- そのときは、使用許可の取得者は一応 miyamae ぷらっとで取ったので、区道路公園センターに行って miyamae ぷらっとの代表の辻として取って。でも、このときに結局、本来ならさっきも山田さんもおっしゃっていましたが、使わせもらえないはずなんですね、町会がかかわっていないので。
- そのときに許可取得への与信をして下さったのが、市民館のその講座に出ていたということで、その講座でコミュニティで公園をもっと活用しようという講座をしたのに、何でだめなんだというのをきって思ってたのかわかりませんが、それで公園を使わせていただけることになりました。

00:05:41

- そのときにチラシとかを町会の掲示板に貼らせていただけないかと言ったんですけども、それもやっぱりダメということで断られて、でも、miyamae ぷらっとの皆さんと一緒にやり始めたっていうのが、2017年です。
- もちろんお金も全部自分たちで調達しないといけないので、これは miyamae ぷらっとに参加して下さった方々がみんなで数千円ずつお金を出し合いました。
- それから、まちかど基金っていうのをつくろうっていうことを言ってその当日、もし少しでも収益が上がったら、少しでも基金に寄付して印刷代とか何かに使えるような、こういう基金をつくろうと。
- あとは助成金といって、こういう仕組みを研究していることによって、報告書を出して助成金をいた

だくっていう。そういうところに申し込んだりしてお金を集めて、この2017年からおちば公園でやりました。

- これはすごく効果があって、たくさんの方が参加してくださいましたし、地域の方が公園ってこういう使い方があるんだいうのをすごく感じてくださったんじゃないかなと思います。
- そのあと、この企画運営が miyamae ぷらっとという団体と、それから出店も miyamae ぷらっとという団体がやっていたということで、なかなか企画運営と出店、両方をやるっていうのはすごく大変なことなんです。やっぱり出店者さんは自分のテーマがありますし、自分の思いがあるのでそちらに専念していただく方がやっぱりすごく良くて、反対に企画運営を、それだけをやるっていう、そういうことをやればいいのかと思って、少し運営を考えるようになりました。
- さらに町内会の協力を得ないで、こういう風にやっていくっていうことはやっぱり良くないんじゃないかなという思いがありましたので、町会の方たちのつながりをつくるために、とにかく町内活動に私が徹底的に出始めて、町内会の方々と信頼関係をつくろうと思って、それで3年間、何もせずにずっと町内会の活動をしていました。

00:08:02

- そして、2021年に区役所の地域振興課の方の協力とか、希望のシナリオの協力も得まして、やっと町内会の方と一緒にやるできるようになりました。
- といっても、この町内会の中のたった2人の方だけが、他の方は皆さん反対だったんですけども、とりあえずじゃあやっていいよってということで、2021年去年ですけれども、町内会と宮前まち倶楽部で、おちば公園で、もう一度開催をすることができました。
- 企画運営は町内会と市民団体の[宮前]まちクラブで企画運営をしました。出店は地域の方々と、地域の方々と地域で市民活動をやっている方々が出てくださいました。
- 当日人がいないので、開催の支援には[miyamae]ぷらっとの方、[区]職員の方々も来てくださいましたし、今日も来てくださってるたくさんの方々、希望のシナリオのメンバーの方々にも協力いただいたり、あと町内会の子供会の方にもお手伝いいただいて、当日開催することができました。
- この時は運営費用は町会が出してくださいました。全部で6万5000円で、保険料が1万5000円なので、実質5万円ぐらいで、チラシの印刷代とかも全部含めてやりました。
- 使用許可の取得は、町内会の会長の名前でいただきましたし、区役所からも多分与信をしていただいたのかな、信用協力をしていただいたのだと思います。

00:09:37

- それで、今年になったんですけども、去年それをやったことで、地域の方々がやっぱりすごく喜んで、自分が出たいって方がすごくたくさんいらっしゃいました。それから何か手伝ってあげるよって方もたくさん名乗り出てくださいましたので、今年は町内会の方々と「地元楽しみ隊」という、これは勝手に、みんなでまだ名前を決めてないんですけど。そういう方々に、割とシニアの方が多くんですけども、週に一回ぐらい集まってみんなでどうしよう、こうしようって言って、運営のこういうチームができました。
- 運営は町内会、住民有志、それから市民活動団体。出店してくださったのも、地域の方々と町内会の

方も出てくださいましたし、地域の人や市民活動団体もありました。

- 当日の開催支援には子ども会が来てくださいましたし、地元の有志の方で去年手伝うよって言ってくださった方が、また手伝いにきてくださったり、宮前まち倶楽部も手伝いました。
- 運営費用は町会費と公園基金というのが置かれまして、それは公園で今回やったから、収入を得たから、これ全部寄付するよとか、そういう方がいらっやって、公園基金というのを数千円ですけれども、立ち上げました。
- 道路公園センターの使用許可の取得はやはり町内会の会長がやってくさって、区役所からも与信ということで、道路公園センターにご連絡いただいたりして難なく許可を得ることができました。

00:11:17

- コミュニティーハブとして公園の可能性というのを、地域の方々に知っていただけたのかなと思います。それで公共施設を使うということで、すごく私たちがやっぱり大事だと思っていることが、多様性と信頼の醸成で、多様な人々が参加することで、やはりそこで地域の理解が得られるのかなっていうこと。
- それから信頼の醸成の、この人たちは本当に地域のことを考えて一生懸命やってくれる人だという信頼を得ることがすごく大事で、今このルール化っていうのもやはり難しいと思うんですね。公共施設をどういうふうにするかという。そこにやっぱりルールを超えた活動への礎になるような信頼が、地元の方達とあるっていうことが、やっぱりすごく大事なのかな。
- 数日前に公園が1つ閉鎖されるっていうニュースがありましたけれども、あれなんて本当に悲しい出来事だと思うんですけども、なんで18年間もあるうちに、地域の方達が苦情を言われた住民の方との信頼をつくるような、そういうことができなかつたのかなということを実際に残念だっていうふうに思います。
- 多様性と信頼の醸成をずっと大事に活動していくということで、最初は自分たち市民団体、行政の方が認めてくださって、今度は町会との信頼が醸成されて、今年は地域住民との信頼も醸成されたと実際に思えることがたくさんありました。

00:12:50

- 今年の12月4日なので、先週の日曜日やったところなんですけれども、ご紹介します。他のチームの方たちみたいにちゃんともっと分ければよかったのか、全てをここに押し込んでしまったんですけども、ちょっと見にくいですけども、一応ご紹介させていただきます。
- 一番上の左の端は、公園清掃と必ず日と一緒にやっているんですね。だから、町内会の方と公園清掃される時にみんな必ず行って、参加して、公園清掃から始める。
- それで今年は販売のマルシェの方なんですけれども、隣の円空仏といって本当に何10年も仏様を木から切り出すっていうサークルをやっている方がシニアの方なんですけども、「僕もこんなの出られるかな」とおっしゃるので、ぜひ出てくださってお願いして出ていただきました。
- これも値段なんてつけなくてもいいからとおっしゃっていたんですけども、小学生がこれを1つ買ったんですね。ずっとマルシェをやっている間持ってるんですね。そんな趣味があるのと聞いたら、おばあちゃんにあげるんだって言って、おばあちゃんにあげるために買ったって言っていました。

- シニアの方が、小学生が自分のを喜んで買ってくれたっていうことを、本当に喜んでらっしゃって、この方も売れたお金を全部、公園基金に寄付してくださいました。

00:14:22

- ちょっと下にいきますけど、これ囲碁をやっているのわかります？青空囲碁って言ってやっぱり老人福祉センターが近くにあるんですけども、そこで囲碁クラブというのがあるらしいんですね。その方達ももっと公園とかで、子ども達たちに見せたいということで、囲碁クラブの方が囲碁をやっているところを見せてくださいました。あんまりちょっと人気なくてがっかりしてらっしゃったので、今度はもうすこし真ん中のいい場所でやっていただけたらいいなという風に思っています。
- それで、この隣ですね。左側は沖縄三線の会というのがありまして、沖縄三線の演奏もしてくださいました。
- その下は地域のシニアの会がいろいろサークルをやっているんですけども、サークル活動の発表がありました。
- そこにネギの写真があると思うんですけども、あれはこの地域の方がおネギを栽培されていて、それで、ジャンケンゲームをして、ネギをもらおうっていうそういう企画を立ててくださいまして、もう本当におネギを、下仁田ネギ、すごく太い、すき焼きにすると美味しい。あのネギを大量に持ってきてくださって、みなさんにじゃんけんして勝ったらもらえるという。それをやってくださいました。

00:15:45

- それから、ちょっと上に戻りますけれども、川田さんがおっしゃっていたような手作りの作品をいろいろ作ってらっしゃる方達が参加してくださいました。
- その隣に絵みたいなのがあるのは分かると思うんですけども、これはもうパステルシャインアートって言うんですけども。これをやってくださった方は、宮前区に住んで30年、でもキャリアウーマンで家と駅の間しか行ったことがない。地域の人は誰も知らない。去年定年になった。さあどうしようって言ったけれども、どこに行ってもいいか分からないんだけど、人とのつながり方がわからない。それでマルシェにお誘いしたんですね。マルシェって置いておくだけで人が寄ってくるので、それで講座に行くとか場所を借りてやるってすごくハードルが高いんですけども、公園ですとそこに自分の作品を並べると人が来てくれる。それでそこで話が弾んで、この間、公園マルシェにすでに出席の方に講座をやらされました。
- そういうふうにして、地域の中でまだなんの足がかりもない方にとっても、公園という外の場ですね。たまたま足を寄せてくれた方が知り合う。そういう偶然を生み出す場になれるんだなってすごく思いました。

00:17:14

- それから、これはコミュニティーガーデンのガーデニングクラブの方が、販売してくださいました。子どもたちのお母さんたちが作られた手作り用品ですね。
- 真ん中に輪投げしているのわかりますか？分りにくいかな。これは3つのペットボトルに水を入

れて、紐を輪っかにして、ただ輪投げをするという、本当にシンプルなんですけれども、10円でやったんですね。でちょっとお菓子もらえるよっていうことで。収入を全てこの公園基金に寄付してもらったんですけど、その収入がなんと1,020円もあったんです。つまり、100人以上がこの輪投げをやったということなんです。すごかったんですね。ずっとぐるっと子ども達が待って、たったこれだけの事なんだけれども、シンプルな手作りのものが、子どもって何かもっともっと高度なものに触れているんですけど、こんなもので本当に喜んで楽しむんだって。

- この隣では、あの絵本の読み聞かせとか、お話しショーって去年もやったんですけど、やってくださってこれもまた大人気で、それをやってくださったボランティアの方がおっしゃってたのが、やっぱり直の声、直接触れるっていうことがどれだけ子どもたちが喜ぶかっていうことが、もう自分がやっていて分かるということで、本当に子どもたちすごい生き生きと聞いていました。

00:18:44

- この下が、ここが花の台町内会っていう名前なので、花の写真展で、花の台町内会の中で取った写真を、60点以上かな。60点ほど大きく引き伸ばして、この秋から冬にかけて撮った写真を、全部一つの花をA4の大きさに印刷して、展示会をしました。すごく皆さん喜んでくださいました。
- その下は地元でダンスを教えているダンスの子どもたちです。
- こっちが、町内会の中に、例えば、なんで花の台っていうんだろう、実は花の台っていう地名が昔あったんだよっていう。そういう町内の中のいろんなところを回ろうっていう1時間のコースを考えてくださって、シニアの方が。それで町内の歴史散歩みたいな感じで行くっていうことで回っていただきました。最初はシニアの方だけだったんですけど、実は子どもたちも参加して、1時間のコースだったんですけど、結局2時間かかって帰って来たっていうのがありました。
- まちの情報コーナーでまちの中にあるいろんなこども食堂の方とか、介護施設とかそういうところの方が自分のチラシを持ってきて参加して置いてくださったりとか。
- それから、防災のマップを区役所からお借りして、防災のみんな自分の避難場所をちゃんと知ろうねというようなこともやりました。

00:20:21

- 大体2歳から89歳の住民が手伝ってくれて、この2歳ってというのは朝来て清掃して落ち葉拾いしてくれた、手伝って実現したこういう場に、0歳からが90歳の住民が参加して楽しんだコミュニティプラットフォームっていう場ができたっていうことで、公園のもつ可能性はすごいなと思いました。
- これからも公園をみんなで作らせていただければ、本当にみんなが喜んで自分のまちが大好きになるんじゃないかな、自分の参加する場とかも持てるんじゃないかと思っています。